

2025年度事業報告書

自 2025年 4月 1日
至 2026年 3月31日

目 次

1. 概況報告	1
2. 定時総会、理事会の開催に関する事業	1
1) 2025年度定時総会の開催	1
2) 理事会の開催	1
3. 委員会の開催に関する事業	2
1) JAPAN PACK 2025 実行委員会	2
2) 包装学校企画運営委員会	5
3) 広報推進委員会	6
4) 産学連携ワーキンググループ	7
5) ISO/TC 313 国内審議委員会	13
6) 技術委員会	14
7) I o T WG	15
4. 会員等諸会合の開催	16
1) 新年賀詞交歓会	16
2) 歳末特別講演会	16
3) 支部会の開催	16
5. 調査、各種情報事業等に関する事業	17
1) 包装・荷造機械生産高・輸出入高の調査	17
2) 技術情報の収集・提供等	17
3) 各種情報の発信等	17
6. 人材育成、セミナー・講習会に関する事業	17
1) 包装学校事業	17
2) 青年部会	18
3) 各種セミナー・講習会	21
7. 国の施策に関する事業	21
1) 中小企業等経営強化法に係る証明書発行に関する事業	21
8. その他関連事業	21
1) 包装機械会館の運営に関する事業	21
2) 会員企業の販売促進、経営安定化に関する事業	22
3) 福利厚生に関する事業	22
4) 関連産業との連携	22
9. 会員の現況	22
1) 入 会	22
2) 退 会	22
3) 会員登録の変更	22

1. 概況報告

わが国の包装機械産業における2024年度の生産実績は4,495億円となり、前年度比3.3%増と堅調な成長を記録した。また、2025年度は、物価上昇が続く中であっても賃上げや雇用環境の改善を背景に、個人消費及び設備投資が底堅く推移し、全体として緩やかな回復傾向となった。

財務省の貿易統計によれば、2025年の輸出高は前年比12.8%増(1~12月確報値)となり、大きく増加した一方、台数は17.4%減となった。また、国内の設備投資も回復基調にあり、経済産業省の機械統計では金額ベースでは前年比10.0%増(1~12月速報値)となった一方、数量は12.1%減となった。これらの動向を踏まえ、2025年度の生産高は前年度を上回る見込みである。

本年度は、事業計画に基づき、国内外の展示会開催をはじめ、各種会員サービスの向上に取り組むとともに、安定的な運営基盤の構築、業界のさらなる発展及び工業会の体制強化に努めた。今後も、業界全体の競争力強化に向けた取り組みを進め、持続的な発展に貢献していきたい。

2. 定時総会、理事会の開催に関する事業

1) 2025年度定時総会の開催

事業計画ならびに定款の規程に基づき、2024年度事業報告書ならびに2024年度決算報告書の審議・承認、2025年度事業計画の報告を行った。

本年は総会の終結をもって退任する理事の補充のため議案が提出され、審議・承認された。総会終了後に懇親会を開催し、会員の親睦を図るとともに情報交換を行った。

※2025年度定時総会

月 日：2025年5月28日(水)
会 場：鉄鋼会館 801号室(東京都中央区)
出席者：109名(委任状による出席も含む)

2) 理事会の開催

事業計画ならびに定款の規程に基づき、5月、9月、12月、3月に計4回理事会を開催し、本年度事業の進捗状況の確認、各議案の審議・承認、役員の実務執行状況等の報告を行い、本会事業の円滑な推進に努めた。

※第371回理事会

月 日：2025年5月28日(水)
会 場：鉄鋼会館 704号室(東京都中央区)
内 容：新規入会の承認／2025年度定時総会上程議案の確認／2025年度事業計画案・収支予算案の承認／役員の実務執行状況に関する件／広報媒体の見直しに関する件／事務局組織・事務処理規程に関する件／報告事項／経済産業省ご挨拶及び施策説明

※第372回理事会

月 日：2025年9月 5日(金)
会 場：包装機械会館 会議室(東京都中央区)

内 容：新規入会の承認／団体PL保険に関する件／報告事項／討議事項、各グループ別（国際・技術・人材）の議論を踏まえた工業会事業の方向性について、各役員の間割分担と事業との係わりについて／経済産業省ご挨拶及び施策説明

※第373回理事会

月 日：2025年12月3日（水）

会 場：城西館（高知市） 3階「日輪の間A」

内 容：役付理事の変更に関する件／新規入会の承認／役員等賠償責任保険契約に関する件／警告マークシールの廃止に関する件／報告事項／来年度の事業計画策定について

※第374回理事会

月 日：2026年3月18日（水）

会 場：包装機械会館 会議室（東京都中央区）

内 容：新規入会の承認／2025年度事業報告書（案）／2025年度決算報告書（案）／2026年度事業計画（案）／2026年度収支予算（案）／2026年度役員の間委員会体制に関する件／2026総会議案（定款変更）について／今後のジャパンパックの体制に関する件／創立60周年事業について／報告事項／グループ別討議

3. 委員会の開催に関する事業

事業計画に基づき、JAPAN PACK 2025 実行委員会、包装学校企画運営委員会、広報推進委員会、産学連携ワーキンググループ、ISO/TC313国内審議委員会、技術委員会、IoTWGを逐次開催し、本年度事業の円滑な推進に努めた。

1) JAPAN PACK 2025 実行委員会

JAPAN PACK 2025 実行委員会（委員長：安達 拓洋 氏 イーデーエム株式会社 社長）は、国内外の包装機械、包装資材、包装材料加工機械、食品加工機械、医薬品・化粧品・日用品製造機械、物流機器および関連技術・サービスを一堂に集め、産業の合理化および国民生活の向上への寄与、貿易の振興、ひいては包装機械業界ならびに関連業界の発展に資することを目的として、2025年10月に開催された「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展」の準備、運営等のため、各種委員会活動を推進した。

第35回を迎えた本展は、2025年10月7日（火）から10日（金）までの4日間、東京ビッグサイト・東展示棟4～8ホールで行われた。キャッチコピー『BEYOND | 包むで創る 人と未来と』のもと、“包装”が単にモノを包む機能にとどまらず、人々の暮らしや社会の基盤を支え、未来を創る力であることを広く発信。会場では、“包装”と次世代技術の融合による新たな価値創出をメインテーマに、「包装×DX」「包装×GX」の2つの視点から、持続可能な社会の実現に向けたソリューションや先進技術の提案が広く展開された。

総展示規模は563社・団体、2,073小間となり、前回展（JAPAN PACK 2023：420社・団体、1,873小間）を大きく上回る結果となった。展示分野としては、包装機械・荷造機械および包装資材・容器を中心に、印刷機械、包材加工機械、ロボット、検査機・検出機、機械部品・要素技術、食品加工機械、医薬品・化

粧品・日用品製造関連機器、物流関連機器、デジタル技術・ソフトウェアなど、包装を取り巻く幅広い産業分野の最新製品・技術が集結し、包装産業のバリューチェーン全体を網羅した展示構成となった。

併催企画は90件を超え、なかでも主要企画として設置された「包装×DX」「包装×GX」コーナーでは、24社が参加してDX関連61件、GX関連56件のソリューションを展示し、生産性向上、人手不足解消、リモートメンテナンス、属人化解消・技術伝承、環境配慮設計、省エネ・省資源、包材使用量削減、食品ロス削減といった課題に対する具体的な提案や、スマートファクトリー事例などが紹介された。また、データ連携の取り組みを紹介する「包装×IoT」コーナーを併設し、工場全体の最適化や意思決定の迅速化につながる包装工程のデジタル化の取り組みを提案するとともに、包装機械のデータ連携規格「J P a c k - F m t」による機械データの統一フォーマット化や、2025年7月に設立された「生産設備データ標準化コンソーシアム」の活動についても紹介を行った。

「スタートアップ&アカデミックエリア」では20社・機関が出展し、AI、データ解析、環境素材などの先端技術を披露。包装のライフサイクル全体を紹介する「包装ライフサイクルコーナー」や、環境配慮型包装の取り組みを紹介する「CLOMAパビリオン」など、持続可能な社会の実現をテーマとした展示も幅広く展開され、来場者から高い関心を集めた。

新製品・新技術の創出および活用促進を目的とした顕彰プラットフォーム「JAPAN PACK AWARDS 2025」は第9回を迎えた。応募19製品の中から、アワード大賞1点、カテゴリー最優秀賞2点、優秀賞4点の合計7点を受賞製品として選出。会期2日目に表彰式を開催のうえ、受賞製品は会場内のパネル展示やプレスツアーを通じて紹介された。

講演プログラムも充実し、最新の技術動向や業界課題について活発な情報共有が行われた。基調講演、特別講演、専門セミナーは合計35講演が実施され、聴講者数は4,261名。出展者によるプレゼンテーションは19講演・聴講者数684名を記録した。

会期4日間の来場者数は合計で33,464名に上り、食品業界を中心とするブランドオーナーや、ユーザー・バイヤーに加え、医薬・化粧品・日用品業界、流通・小売関係者、機械・資材サプライヤーなど、多様な業種の関係者が会場を訪れた。来場者の部門や役職も幅広く、研究開発、生産技術、経営層など意思決定に関わる層の参加も多く、商談や情報交換の場として活発なビジネス交流が展開された。

以上のとおり、本展は包装産業を取り巻く最新技術、環境対応、デジタル化の潮流を多岐にわたり紹介するとともに、国内外の関係者の交流とビジネス機会の創出を促進する場として成功裡に開催された。実行委員会としては、本展を通じて得られた成果と課題を踏まえ、今後も包装関連産業の持続的発展と社会課題解決に資する展示会運営に努めていく所存である。

なお、次回（JAPAN PACK 2027 日本包装産業展）は、2027年10月6日（水）から同月8日（金）までの3日間、東京ビッグサイト東展示棟で開催予定。

※第3回実行委員会

月 日：2025年 4月17日（木）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：小間割および会場計画の承認、併催行事・企画案の討議、その他

※第5回DXワーキンググループ会議

月 日：2025年 7月 2日（水）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：併催行事・企画案の討議、その他

※第5回GXワーキンググループ会議

月 日：2025年 7月 2日（水）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：併催行事・企画案の討議、その他

※第11回正副実行委員長会議

月 日：2025年 8月19日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：主要行事・企画における役割分担の討議、広報活動計画案の確認、その他

※第12回正副実行委員長会議

月 日：2025年 9月 9日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：第4回実行委員会の議事・進行確認、その他

※第4回実行委員会

月 日：2025年 9月 9日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：主要行事・企画における役割分担の討議、広報活動計画案の確認、その他

※JAPAN PACK 2025 日本包装産業展

月 日：2025年10月 7日（火）～10日（金）

会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

内 容：開催概要として以下の通り

- 1) 総展示規模：563社・団体、2,073小間
- 2) 総来場者数：33,464名
- 3) 主要行事・企画：

【10月 7日（火）】

- ・開会式
- ・海外VIPツアー
- ・プレスツアー
- ・包装業界見学ツアー
- ・「包装×DX」見どころツアー
- ・「包装×GX」見どころツアー
- ・オープニングレセプション
- ・海外VIP歓迎会

【10月 8日（水）】

- ・「包装×DX」見どころツアー
- ・「包装×GX」見どころツアー

- ・ JAPAN PACK AWARDS 2025表彰式
 - ・ JAPAN PACK AWARDS 2025受賞製品プレスツアー
- 【10月 9日 (木)】

- ・ 「包装×DX」見どころツアー
- ・ 包装業界見学ツアー
- ・ 研究成果発表プロジェクト情報交換会

【10月10日 (金)】

- ・ 「Food Business Field Trip in TOKYO 2025」ミニ商談会・会場巡回ツアー

4) 特別展示:

- ・ 「包装×DX」／「包装×GX」コーナー ※合計24社出展
- ・ 「包装×IoT」コーナー ※6社出展
- ・ スタートアップ&アカデミックエリア ※20社・機関出展
- ・ 包装ライフサイクルコーナー ※15社・団体出展
- ・ CLOMAパビリオン ※25社・団体出展
- ・ 研究成果発表コーナー ※12校出展
- ・ DX／GXステージ (基調／特別講演、専門セミナー会場)
- ・ プレゼン会場A／B (出展者プレゼン会場)
- ・ JAPAN PACK AWARDS 2025受賞製品パネル展示
- ・ 包装相談コーナー
- ・ 産学連携ラウンジ

※報告会

月 日：2025年11月12日 (水)

会 場：野村コンファレンスプラザ日本橋 (東京都中央区)

内 容：開催概要報告、成果および課題・改善案の討議、全体総括

2) 包装学校企画運営委員会

包装学校企画運営委員会 (委員長：一岡 幹朗氏 協和電機株式会社社長) は、本年6月から開講の第52期包装学校ならびに来期包装学校の開講準備にあたり、下記の委員会活動を推進した。

※第123回包装学校企画運営委員会

月 日：2025年5月20日 (火)

場 所：包装機械会館2F会議室

内 容：第52期開講式・オリエンテーションについて

※第124回包装学校企画運営委員会

月 日：2025年8月26日 (火)

場 所：包装機械会館2F会議室

内 容：第53期包装学校について／包装学校フォローアップについて

※第125回包装学校企画運営委員会

月 日：2025年11月27日 (木)

場 所：包装機械会館 2 F 会議室
内 容：第 5 3 期包装学校カリキュラムの決定

※第 1 2 6 回包装学校企画運営委員会

月 日：2 0 2 6 年 2 月 5 日 (木)
場 所：包装機械会館 2 F 会議室
内 容：第 5 2 期ディベートディスカッション・修了式について

3) 広報推進委員会

広報推進委員会（委員長：下島 敏章 氏 ストラパック株式会社 社長）は、関連業界等と連携強化を図りながら以下の委員会活動を推進し、国内外に向けてジャパンプランドを広くアピールすることにより、当工業会ならびに会員企業ひいては関連業界各位の価値向上に繋がるための活動に努めた。

※第 3 3 回広報推進委員会

月 日：2 0 2 5 年 5 月 1 3 日 (火)
会 場：包装機械会館（東京都中央区）およびオンライン
議 題：各担当グループにおける実施事業の報告、今年度の実施事業計画案についての討議

※P r o P a k A s i a 2 0 2 5 日本パビリオン

月 日：2 0 2 5 年 6 月 1 1 日 (水) ~ 1 4 日 (土) 4 日間
会 場：B I T E C (タイ・バンコク)

出展者：株式会社旭金属、株式会社エー・アンド・デイ、オークテック株式会社、大森機械工業株式会社、株式会社オシキリ、川上産業株式会社、株式会社川島製作所、シコー株式会社、澁谷工業株式会社、城南自動機株式会社、司化成工業株式会社、株式会社塚谷刃物製作所、株式会社東京自働機械製作所、トキワ工業株式会社、株式会社トパック、ニッカ電測株式会社、株式会社ニッサンキコー、日本ポリスター株式会社、株式会社古川製作所、三木プーリ株式会社、株式会社三橋製作所、村田機械株式会社、株式会社横浜自働機、レオン自動機株式会社、一般社団法人日本包装機械工業会
(以上、2 5 社・団体、5 7 0 m²/約 6 4 小間)

※第 3 4 回広報推進委員会

月 日：2 0 2 5 年 7 月 2 9 日 (火)
会 場：包装機械会館（東京都中央区）およびオンライン
議 題：各担当グループにおける実施事業の報告、今年度の実施事業計画案についての討議

※J A P A N P A C K 2 0 2 5 連携企画「日本包装機械工業会セミナー」

月 日：2 0 2 5 年 1 0 月 9 日 (木)
会 場：東京ビッグサイト東展示棟 7 ホール内「G X ステージ」（東京都江東区）
講 師：河田 陽介 氏 CKD株式会社 自動機械事業本部 技術統括部
包装技術部 第 1 G グループリーダー
主 題：CKDの取り組む環境に優しいPTP包装技術

聴講者：75名

※Next Package 2025 出展

月 日：2025年11月14日（金）

会 場：秋葉原 UDX ギャラリー（東京都千代田区）

内 容：P&M通信のPR（160部配布）、包装機械に関する相談（2件）、
出展・来場関係者との交流（リード獲得55件）

※日本包装機械工業会セミナー

月 日：2025年11月19日（水）

会 場：オンライン

発表者：佐藤 太一 氏 東京電機大学 名誉教授

主 題：実務と学問をつなぐD-Tecセミナー
～実践知教育から広がる新たな学びのかたち～

聴講者：71名

※第35回広報推進委員会

月 日：2025年11月19日（水）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）およびオンライン

議 題：各担当グループにおける実施事業の報告、第4四半期および次年度の事業
計画案についての討議

※会員セミナー

月 日：2026年 1月22日（木）

会 場：オンライン

発表者：岩田 真 氏 ピアブ・ジャパン株式会社 プロダクトセールスマネージャー

主 題：エジェクターが提案する真空源の省エネとメンテナンス

聴講者：27名

※ユーザー工場見学会

月 日：2026年 2月10日（火）

会 場：株式会社岡山和気ヤクルト工場（岡山県和気郡）

内 容：ものづくりの思想を学ぶ、最先端の生産・包装ラインを見学

参加者：12名

※第36回広報推進委員会

月 日：2026年 2月10日（火）

会 場：NPD貸会議室 岡山駅前（岡山県岡山市）およびオンライン

議 題：各担当グループにおける実施事業の報告、次年度の事業計画案について
の討議

4) 産学連携ワーキンググループ

産学連携ワーキンググループ（リーダー：神谷 泰仁 氏 マキー・エンジニアリング株式会社 社長）は、包装業界がいかに生活に身近で、社会貢献度の高い業界であるかを広く周知し続け、業界の認知度を向上させるとともに、人手不足や採用難などの業界共

通の課題解決に貢献することを主な目的とし、活動に努めた。

※包装業界の認知度向上に向けたホームページの開設

月 日：2025年 4月 1日（火）～

目 的：包装業界の社会的な役割や魅力を伝え、業界の認知度向上および理解深化につなげるとともに、人手不足や採用難などの業界共通の課題解決に貢献する様々な企画情報を周知するプラットフォームの役割となること

内 容：業界・イベント情報などのニュース、包装・包装機械について、工業会事業・包装業界の取り組み、業界で働くことについて等

※第1回採用力向上に向けた勉強会

月 日：2025年 4月25日（金）

会 場：株式会社フジキカイ THE BASE NAGOYA（愛知県北名古屋市）
およびオンライン

内 容：選考やインターンシップ参加者への旅費交通費支払い、適性テストの活用方法、各階層別の研修について

※第10回産学連携ワーキンググループ会議

月 日：2025年 5月 8日（木）

会 場：オンライン

議 題：今年度の事業計画案、大学との共同企画、JAPAN PACK 2025
産学連携企画案について

※第2回採用力向上に向けた勉強会

月 日：2025年 5月27日（火）

会 場：オンライン

内 容：26年卒採用の現状、採用活動の成功事例、各社採用チーム体制、
内定承諾期限と内定者フォローについて

※第11回産学連携ワーキンググループ会議

月 日：2025年 6月16日（月）

会 場：オンライン

議 題：東京工科大学デザイン学部との共同企画、JAPAN PACK 2025
産学連携企画案について

※第3回採用力向上に向けた勉強会

月 日：2025年 7月 3日（木）

会 場：オンライン

内 容：各社の高卒採用状況

※第12回産学連携ワーキンググループ会議

月 日：2025年 7月14日（月）

会 場：オンライン

議 題：東京工科大学デザイン学部との共同企画、JAPAN PACK 2025
産学連携企画案、青年部会との共同勉強会企画について

※東京工科大学デザイン学部との共同研究契約締結

期 間：2025年 8月 1日（金）～2028年 3月31日（金）

テーマ：デザインアプローチによる包装業界の魅力の抽出と発信

目 的：包装業界は日常生活を支える重要な産業である一方、その社会的役割や魅力が生活者に十分認知されていないという課題があることから、業界の価値や魅力を抽出・可視化するデザインプロセスを通じて発信を行い、認知度向上を図る

※第4回採用力向上に向けた勉強会

月 日：2025年 8月 6日（水）

会 場：オンライン

内 容：インターンシップの各社状況、各社選考基準・見るポイント、採用における権限について

※第13回産学連携ワーキンググループ会議

月 日：2025年 8月28日（木）

会 場：オンライン

議 題：青年部会との共同勉強会企画、東京工科大学デザイン学部との共同企画、JAPAN PACK 2025産学連携企画案の進捗状況について

※東京工科大学デザイン学部2年生「包装業界レクチャー」（第3クォーター）

月 日：2025年 9月16日（火）

会 場：東京工科大学蒲田キャンパス（東京都大田区）

内 容：日本包装機械工業会、包装業界の概要と包装・包装機械の魅力、質疑応答
発表者：山口 裕史 氏 ストラパック株式会社 コーポレート本部 人事総務部
人事総務課 主任

受講者：約60名

※第5回採用力向上に向けた勉強会

月 日：2025年 9月18日（木）

会 場：オンライン

内 容：学生へのノベルティ配布、26卒内定辞退理由の傾向、内定後の研修内容

※第14回産学連携ワーキンググループ会議

月 日：2025年 9月25日（木）

会 場：オンライン

議 題：大学との共同企画、JAPAN PACK 2025産学連携企画案の進捗状況について

※JAPAN PACK 2025連携企画「研究成果発表コーナー」

月 日：2025年10月 7日（火）～10日（金）

会 場：東京ビッグサイト東展示棟8ホール内（東京都江東区）

出展校：愛知県立大学 情報科学部 神谷幸宏研究室、金沢工業大学 メディア情報学部 伏島研究室／渡邊研究室、群馬大学 環境調和型材料科学研究室、埼玉大学 経済学部 有賀ゼミナール、十文字学園女子大学 人間生活学部 食品開発研究室、星城大学 経営学部 戦略的マーケティング研究室 高嶋ゼミ、大東文化大学 社会学部 八木原研究室、東京電機大学 理工学部 生産

工学研究室、日本女子大学 食品学・食品包装学研究室、日本大学 理工学部 細野・関研究室、明治大学 高分子科学研究所、山口東京理科大学 工学部 結城研究室

(以上、12校13パネル、約36㎡/4小間相当)

来訪者：632名/4日間

※ JAPAN PACK 2025 連携企画「研究成果パネルディスカッション」

月 日：2025年10月 9日 (木)

会 場：東京ビッグサイト東展示棟8ホール内「DXステージ」(東京都江東区)

テーマ：包むで創る 人と暮らし 地球の未来

登壇者：安達 拓洋 氏 JAPAN PACK 2025 実行委員会 委員長

寺澤 秀郷 氏 愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 修士2年

望月 颯太 氏 金沢工業大学大学院 工学研究科 システム設計工学専攻
修士1年

草間きなり 氏 十文字学園女子大学 人間生活学部 食品開発学科 3年

神田 志織 氏 星城大学 経営学部・経営学科 4年

太田眞唯子 氏 日本女子大学大学院 家政学研究科 食物・栄養学専攻
修士1年

進行役：及川 諒太 氏 一般社団法人日本包装機械工業会 産学連携ワーキンググループ 委員

聴講者：114名

※ JAPAN PACK 2025 連携企画「研究成果発表プロジェクト情報交換会」

月 日：2025年10月 9日 (木)

会 場：東京ビッグサイト東展示棟6ホール「主催者事務室」(東京都江東区)

参加者：34名

※ JAPAN PACK 2025 連携企画「研究成果発表ポスターセッション」

月 日：2025年10月10日 (金)

会 場：東京ビッグサイト東展示棟8ホール内「ピッチ会場」(東京都江東区)

発表①：寺澤 秀郷 氏 愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 修士2年

「最新データ解析技術を用いた機械・設備の予兆保全技術」

発表②：望月 颯太 氏 金沢工業大学大学院 工学研究科 システム設計工学専攻
修士1年

「悩みの開示に対するAIチャットボットの共感的反応が気分状態に
及ぼす影響」

発表③：太田眞唯子 氏 日本女子大学大学院 家政学研究科 食物・栄養学専攻
修士1年

「青果物用パルプモールドトレイの最適化に関する研究」

発表④：神田 志織 氏 星城大学 経営学部・経営学科 4年

「包装資材の工夫による外食産業の人手不足改善策の提案」

発表⑤：宮成 春奈 氏 埼玉大学 経済学部 3年

「レジ袋の使用についての年代別比較」

発表⑥：井上 琴菜 氏 埼玉大学 経済学部 3年

「生物多様性の認知度向上に向けて」

発表⑦：宮川 七海 氏 十文字学園女子大学 人間生活学部 食品開発学科 3年

「規格外野菜を有効活用した食品開発 大学を通じた6次産業化の推進」

発表⑧：大東文化大学 社会学部社会学科

「プラスチック包装と食品ロス最適比率に関する理論的・実証的研究」

発表⑨：石田 達大 氏 山口東京理科大学 工学研究科・機械工学専攻 修士1年

「爆発圧着ポラス管による省エネ冷却技術の提案」

※JAPAN PACK 2025連携企画「包装業界ガイダンス・見学ツアー」

月 日：2025年10月 7日（火）～10日（金）

会 場：東京ビッグサイト東展示棟内（東京都江東区）

参加者：62名／4日間

※JAPAN PACK 2025連携企画「産学連携ラウンジ」

月 日：2025年10月 7日（火）～10日（金）

会 場：東京ビッグサイト東展示棟8ホール内（東京都江東区）

利用者：59名／4日間

※第6回採用力向上に向けた勉強会

月 日：2025年10月23日（木）

会 場：オンライン

内 容：内定～入社3年目までの研修、新入社員・若手社員の離職防止・モチベーション向上の取組み

※東京工科大学デザイン学部2年生「作品発表会および講評」（第3クォーター）

月 日：2025年11月10日（月）

会 場：東京工科大学蒲田キャンパス（東京都大田区）

内 容：学生がインフォグラフィックス（画像）16作品およびインフォモーション（動画）60作品を発表し、優秀作品賞、グループ賞、オーディエンス賞をそれぞれ選出。工業会関係者は審査員として、評価と講評を行う。

※東京工科大学デザイン学部2年生「包装業界レクチャー」（第4クォーター）

月 日：2025年11月17日（月）

会 場：東京工科大学蒲田キャンパス（東京都大田区）

内 容：日本包装機械工業会、包装業界の概要と包装・包装機械の魅力、質疑応答
発表者：細村 淳一 氏 大森機械工業株式会社 経営企画本部 兼 管理本部
マネージャー

受講者：約60名

※第7回採用力向上に向けた勉強会

月 日：2025年11月28日（金）

会 場：オンライン

内 容：中途採用の年間採用人数および採用手法、評価制度の内容、社員教育での他社活用

※第15回産学連携ワーキンググループ会議

月 日：2025年12月 8日（月）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）およびオンライン

議 題：JAPAN PACK 2025研究成果発表プロジェクト報告、東京工科大学デザイン学部との共同企画報告

※東京工科大学デザイン学部2年生「作品発表会および講評」（第4クォーター）

月 日：2026年 1月 6日（火）

会 場：東京工科大学蒲田キャンパス（東京都大田区）

内 容：学生がインフォグラフィックス（画像）16作品およびインフォモーション（動画）60作品を発表し、優秀作品賞、グループ賞、オーディエンス賞をそれぞれ選出。工業会関係者は審査員として、評価と講評を行う。

※東京工科大学デザイン学部3年生「座談会」

月 日：2026年 1月21日（水）

会 場：東京工科大学蒲田キャンパス（東京都大田区）およびオンライン

内 容：包装業界の魅力を発信するためのコンセプト立案の前段として、今後の可能性について思い・アイデア等を多角的に話す。

参加者：23名（デザイン学部13名、産学連携ワーキンググループ10名）

※第8回採用力向上に向けた勉強会

月 日：2026年 1月23日（金）

会 場：オンライン

内 容：面接官教育、部署間や事業所間のコミュニケーション

※東京工科大学デザイン学部3年生「コンセプト発表会」

月 日：2026年 2月16日（月）

会 場：オンライン

内 容：JAPAN PACK 2025の視察や包装機メーカーの工場見学、業界関係者との座談会を通じて、包装業界の現場・技術・企業姿勢に直接触れてきた体験から得た気づきや問いを起点に、デザインの視点・若い世代ならではの感性で包装業界の魅力を再抽出し、業界の認知度向上および新たなブランドイメージ創出につなげるためのコンセプトを提示

※第16回産学連携ワーキンググループ会議

月 日：2026年 2月27日（金）

会 場：オンライン

議 題：東京工科大学デザイン学部との共同企画報告、産学連携セミナーの開催、次年度事業計画案と今後の予定について

※産学連携セミナー「食品開発から包装をつなぐ品質設計」

月 日：2026年 3月 3日（火）

会 場：オンライン

講演①：曾矢麻理子 氏 十文字学園女子大学 人間生活学部 食品開発学科

「食品開発の視点から食品包装に求めること 大学での商品開発を事例に」

講演②：北澤 裕明 氏 日本女子大学 食科学部 食科学科 食品学・食品包装学研究室

「食品加工技術としての包装」

聴講者：375名

※第9回採用力向上に向けた勉強会

月 日：2026年 3月 6日（金）

会 場：オンライン

内 容：学生向け説明資料の共有、新卒で卒業できなかった場合の対応

5) ISO/TC313国内審議委員会

ISO/TC313国内審議委員会(委員長:三好 孝典氏 長岡技術科学大学教授)は、昨年度に引き続き、イタリアから提案された包装機械におけるEN415規格のISO化(ISO/TC313)に伴い、国内審議委員会活動及び国際会議への参加を実施した。

本ISO事業は2025年5月27日より経済産業省より委託事業として契約をすることに至った。本事業が委託事業となったことに抛り、資金面において国の援助を得られることになった。今後海外開催の国際会議に現地出席の機会が増加し、日本代表として議論討議が格段と促進され、国際貢献度がより大きくなる。

※ISO/TC313/AHG1国際会議

月 日：2025年7月8日(火)、9日(水)、10日(木)

会 場：包装機械会館 1F会議室及びオンライン

内 容：N文書コメントに対する各国の審議・承認

※ISO国内審議委員会

月 日：2025年7月23日(水)

会 場：(オンライン)

内 容：AHG1報告、委員長交代、委託事業契約報告

※ISOロビー活動

月 日：2025年11月10日(月)、

会 場：イタリア/ミラノ/UNI

内 容：新議長挨拶・日本のスタンス説明

※ISO/TC313国際会議(全体会議)

月 日：2025年11月12日(水)

会 場：包装機械会館 1F会議室及びオンライン

内 容：新議長挨拶・ISO/TC313コンセンサスに対する各国の合意

※ISO国内審議委員会

月 日：2025年11月20日(木)

会 場：包装機械会館 2F会議室

内 容：ロビー活動プレナリー報告、WG1動向説明

※ISO/TC313/AHG1国際会議

月 日：2025年12月1日(月)、2日(火)、3日(水)

会 場：包装機械会館 1F会議室、長岡技術科学大学及びオンライン

内 容：N文書コメントに対する各国の審議・承認

※ISO/TC313/WG1国内審議委員会 幹事会

月 日：2026年1月28日(水)

会 場：オンライン

内 容：N文書コメントに対する審議

※ISO/TC313/WG1国際会議

月 日：2026年2月2日(月)～6日(金)

会 場：ドイツ/フランクフルト/VDMA及びオンライン

内 容：N文書コメントに対する各国の審議・承認

6) 技術委員会

技術委員会(委員長：牧野 研二氏 ゼネラルパッカー株式会社社長)は、技術事業のあり方を検討し、技術センターの事業方針を決定した上で、包装機械を取巻く環境変化への対応や産学・産産連携、工場見学等を計画し実施した。

※2025年度第1回技術委員会

月 日：2025年5月15日(木)

会 場：包装機械会館2F会議室

内 容：1. Jpack-Fmt正式発表
2. グループディスカッション
3. ISO国内審議委員会 報告
4. 本年度 技術委員会実行計画について

※2025年度第2回技術委員会

月 日：2025年7月17日(木)

会 場：包装機械会館2F会議室

内 容：1. 包装・荷造機械の安全基準改訂版WG
2. ISO 事業報告
3. JP2025 準備状況報告
4. IoTWG 展示
5. 工場見学先

※メルシャン工場 興人フィルム&ケミカルズ見学会及び意見交換会

月 日：2025年10月22日(水)

会 場：メルシャン熊本工場及び興人工場

内 容：工場見学及び意見交換
① 技術委員会 13名参加
② 工場ご紹介
③ 意見交換会

※サントリー熊本工場 再春館製薬見学会

月 日：2025年10月23日(木)

会 場：サントリー熊本工場及び再春館製薬工場

内 容：工場見学

- ① 技術委員会 11名参加
- ② 工場ご紹介

※2025年度第3回技術委員会

月 日：2026年2月10日(火)

会 場：包装機械会館2F会議室

- 内 容：1. ISO事業報告
2. コンソーシアム報告
3. JP2025IoT 展示報告
4. IoTWG 展示報告
5. 包装・荷造機械の安全基準改訂版 WG
6. 次年度計画

7) IoT WG

包装機械類標準仕様の検討となる IoT 導入・活用の「指針」をまとめ、周知することにより包装機械業会及びユーザー業界双方の生産性向上に寄与する。その具体的な内容を検討する専門家会議として、本WG(リーダー：福井 健二氏 株式会社協和電機 取締役)

※第28回 IoT WG ミーティング

月 日：2025年4月11日(金)

会 場：包装機械会館 2F会議室

内 容：指針発表総括

※標準化指針Jpack-Fmt正式発表

月 日：2025年5月12日(月)

会 場：包装機械会館 2F会議室及びオンライン

内 容：発表・説明(ウェビナー)

※第29回 IoT WG ミーティング

月 日：2025年10月16日(木)

会 場：オンライン

内 容：展示会報告、コンソーシアム報告、今後について

※第30回 IoT WG ミーティング

月 日：2025年11月5日(水)

会 場：包装機械会館 2F会議室

内 容：コンソーシアム報告

※第31回 IoT WG ミーティング

月 日：2026年3月19日(木)

会 場：包装機械会館 2F会議室

内 容：今後について

なお、今年度より生産設備データ標準化コンソーシアムが農林水産省の支援の下、7月24日発足した。

本コンソーシアムは味の素、味の素食品、カルビー、サントリー、ハウス食品、明治、日本包装機械工業会、及び事務局アビームコンサルティングで構成される。

食品製造業の生産設備が持つ多様なデータを収集・利活用することにより「製造DX」を推進し、生産設備データに関する標準規格の策定を目指し、主にデータ仕様と通信方式の標準化を検討していく。

総会、運営委員会、標準部会の構成で運用されている。標準部会は月1回の活動を基本としている。

4. 会員等諸会合の開催

2025年度事業計画に基づき、新年賀詞交歓会、歳末特別講演会、支部会を開催した。

1) 新年賀詞交歓会

関係官公庁、当会会員、関連団体、金融関係等の方々をお招きして、当会と株式会社日本包装リースと合同で、2026年新年賀詞交歓会を開催した。

※2026年新年賀詞交歓会

月 日：2026年1月14日（水）

会 場：パレスホテル東京 4階「山吹」

出席者：292名

2) 歳末特別講演会

事業計画に基づき、2025年度歳末特別講演会を開催した。

※2025年度歳末特別講演会

月 日：2025年12月 3日（水）

会 場：城西館 3階『日輪の間B』（高知県高知市）

テーマ：龍馬が求めた人材

講 師：高知県立坂本龍馬記念館 学芸課長 三浦 夏樹氏

出席者：49名

3) 支部会の開催

事業計画に基づき、当会事業の周知と会員間の情報交換・親睦等を目的として東日本支部、西日本支部を開催した。2026年度事業計画案の報告ならびに講師をお招きして講演会を開催した。

※東日本支部会

月 日：2026年3月10日（火）

会 場：包装機械会館 2階会議室（東京都中央区）

内 容：2026年度事業計画案等について／経済産業省の施策概要について

講演会：トランプ関税下の世界・日本経済の動向

講 師：株式会社日本政策投資銀行設備投資研究所課長 木元 和久氏

出席者：19名

※西日本支部会

月 日：2026年3月11日（水）

会 場：世界のビール博物館 グランフロント大阪店（大阪府北区）

内 容：2026年度事業計画案等について／経済産業省の施策概要について
講演会：世界の包装の潮流 2026
講 師：株式会社東洋紡パッケージプランサービス
 シニアアドバイザー 松田 修成氏
出席者：28名

5. 調査、各種情報事業等に関する事業

包装機械・関連機器に関する国内外の市場調査をはじめ、技術情報や関連規格等の情報を調査・収集し、P&M通信・ウェブサイト・メール等を通じ、広く一般に公開し、わが国包装機械産業・関連機器産業の技術高度化ならびに需要業界の包装合理化に資することを目的として、本年度は次の事業を推進した。

1) 包装・荷造機械生産高・輸出入高の調査

わが国の包装機械メーカー約420社に対して、2024年度の生産高と輸出入高ならびに2025年度の生産計画に係るアンケート調査を実施した。

調査結果については「包装機械及び荷造機械生産高・輸出入高統計資料」としてまとめ、会員企業をはじめ広く一般に頒布・公開した。

2) 技術情報の収集・提供等

(1) 技術センター事業

技術センターの事業として、包装機械ならびに関連機器に関する国内外のユーザー等からの各種技術相談の受付・回答、製品引き合いに対する会員企業等への斡旋事業を推進すると共に会員企業からの技術開発の向上に関する相談の推進に努めた。

また、機械安全・CEマーキング等の相談に対応した。安全・衛生指導事業は今後も継続する。

(2) 警告マークの頒布

機械のオペレーターや保守担当者に危険個所を適切に表示・告知する「警告マーク」（日本語版）を広く包装機械・関連機器メーカーに頒布を継続した。

3) 各種情報の発信等

(1) 機関媒体「P&M通信」の発信に関する事業

当会ウェブ機関誌「P&M通信」を毎月2回発行し、わが国の包装機械、関連機器、包装資材等の新製品・新技術情報や当会事業活動、国の施策や機械統計（経済産業省）、貿易統計（財務省）等情報の包装機械業界およびユーザー業界への周知・広報に努めた。

(2) 電子媒体の活用に関する事業

日包工・ジャパンパックのウェブサイトでの情報発信をはじめ、メールを通じ、関連省庁からの周知依頼、当会ならびに関連団体の行事等の情報の発信に努めた。また「インターネット製品PRコーナー（日本語・英語・中国語）」の掲載を通じ、会員企業製品の需要喚起に努めた。

6. 人材育成、セミナー・講習会に関する事業

1) 包装学校事業

わが国包装機械メーカーの技術者、セールスエンジニアならびにユーザー企業の包装担当者を対象とした第52期包装学校を開講した。本年度は、2025年6月の開講式・オリエンテーションから2026年3月の修了式まで、包装機械設計・パッケージ

ングエンジニア・デジタル制御技術の各講座を通じて、包装機械業界およびユーザー業界の人材育成・高度化に努めた。

昭和49年度の第1期から本年度の第52期までの修了者は5,557名となり、包装機械業界はもとよりユーザー業界からは、包装機械に関する唯一・高度の人材育成機関として極めて高い評価を得ている。

※第52期包装学校の課程別修了生（計130名）

- 1) 包装機械設計技術専門課程 67名
- 2) パッケージングエンジニア専門課程 51名
- 3) デジタル制御技術専門課程 12名
 - ・ モーション制御講座

【第1期から第52期までの受講生数、修了者数】

受講者数・修了者数 専門課程名	受講者数（人）		修了者数（人）	
	52期	1～52期計	52期	1～52期計
1. 包装機械設計技術課程	68	3,195	67	3,082
2. パッケージングエンジニア課程	52	2,321	51	2,220
3. デジタル制御技術課程	12	345	12	255
合 計	132	5,861	130	5,557

2) 青年部会

日本包装機械工業会の次代を担う経営幹部育成を目的として、青年部会（部会長：古城 美将 氏 城南自動機株式会社 社長）は、以下の事業実施等を通じて会員相互の研鑽に努めた。

※2025年度定時総会

月 日：2025年 4月 9日（水）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

議 題：2024年度事業報告書案、2025年度役員体制案、2025年度事業計画書案についての審議

出席者：42名（会場：31名、委任状：11名）

※チームビルディング活動・情報交換会

月 日：2025年 4月 9日（水）

行事①：チームビルディング活動

会 場：東京ドームボウリングセンター（東京都文京区）

行事②：情報交換会

会 場：水道橋 牛タンいろ葉（東京都千代田区）

参加者：38名

※第93回幹事会

月 日：2025年 5月 8日（木）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）およびオンライン
議 題：2025年度事業計画書案等について討議

※第94回幹事会

月 日：2025年 7月16日（水）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）およびオンライン
議 題：2025年度事業計画書案等について討議

※2025年度第1回勉強会

月 日：2025年 7月16日（水）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）
テーマ：昨年度の振り返りと今後に向けて
参加者：21名

※夏季セミナー

月 日：2025年 9月 3日（水）、4日（木）
行事①：2025年度第2回勉強会
会 場：Karuzawa Prince The Workation Core
（長野県北佐久郡）
テーマ：青年部会×産学連携ワーキンググループコラボ勉強会
「包装業界の”人財”と魅力を語り、探る」
行事②：情報交換会
会 場：軽井沢バーベキューテラス（長野県北佐久郡）
行事③：懇親ゴルフコンペ
会 場：軽井沢72ゴルフ西ゴールドコース（長野県北佐久郡）
参加者：52名

※JAPAN PACK 2025連携企画「パネルディスカッション」

月 日：2025年10月 7日（火）
会 場：東京ビッグサイト東展示棟8ホール「プレゼン会場B」（東京都江東区）
テーマ：日本包装機械工業会・青年部会の今と未来への大いなる一歩
～包装と自動化の未来にあるべき姿を考える～

登壇者：古城 美将 氏 一般社団法人日本包装機械工業会 青年部会 部会長
戸谷 隆一 氏 一般社団法人日本包装機械工業会 青年部会 直前部会長
生田 涌希 氏 一般社団法人日本包装機械工業会 青年部会 副部会長
上月謙太郎 氏 一般社団法人日本包装機械工業会 青年部会 副部会長
齋藤竜太郎 氏 一般社団法人日本包装機械工業会 青年部会 幹事
大森 頼子 氏 一般社団法人日本包装機械工業会 青年部会 幹事
結城 真衣 氏 一般社団法人日本包装機械工業会 青年部会 幹事
山田 哲郎 氏 一般社団法人日本包装機械工業会 青年部会 幹事
宝坂 健児 氏 一般社団法人日本包装機械工業会 「P&M通信」編集局長

聴講者：26名

※国内工場見学会および講演会

月 日：2025年11月20日（木）

会 場：キャノンエコテクノパーク（茨城県坂東市）

講 師：古田 清人 氏 キヤノン株式会社 サステナビリティ推進本部 理事顧問

主 題：環境問題への取組の重要性について

参加者：16名

※2025年度第3回勉強会

月 日：2025年12月 2日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

テーマ：国内工場見学と現場改善座談会

参加者：14名

※第95回幹事会

月 日：2026年 1月13日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）およびオンライン

議 題：2025年度事業報告書(案)、2026年度役員体制(草案)、
2026年度事業計画書(草案)、今後の日程と各種報告等について

※2026年新年情報交換会

月 日：2026年 1月13日（火）

会 場：東天紅上野本店（東京都台東区）

参加者：56名

※海外包装市場視察ツアー

月 日：2026年 2月 3日（火）～5日（木）

視察先：台湾〔台北市・桃園市近郊（台北地区）および嘉義市近郊（台南地区）〕

内 容：現地工場見学（BENISON社、SAFWU INDUSTRY社、
JAWFENG MACHINERY社）、現地企業との交流会、
日本台湾交流協会での台湾市場ブリーフィング参加等

参加者：13名

※第96回幹事会

月 日：2026年 2月25日（水）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）およびオンライン

議 題：次期部会長方針説明、2026年度事業計画(案)、定時総会の役割分担
(案)、本日の勉強会について

※2025年度第4回勉強会

月 日：2026年 2月25日（水）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

テーマ：海外視察から考える、自社への活かし方

参加者：16名

※会員名簿PDF版の運用

3) 各種セミナー・講習会

(1) 厚労省通達「設計技術者に対する機械安全教育」講習会の開催

日本包装機械工業会は、(一社)安全技術普及会、職業能力開発総合大学校と共催で講習会をオンラインにて開催した。

職業能力開発総合大学校(東京都小平市)

- ① 機械の安全化と国際安全規格編 (2日)
2025年12月4日、5日
- ② 機械安全におけるリスク低減編 (2日)
2026年1月15日、16日
- ③ リスクアセスメントの実践と妥当性確認編 (2日)
2026年2月5日、6日
- ④ 電気制御システム編 (2日)
2026年3月5日、6日

(2) IEC 60204-1/JIS B 9960-1対応

「実習で学ぶ制御盤の安全検証試験」講習会の開催

2025年度事業で開催するため、高度ポリテクセンターと協議し、下記日程で開催した。

関東会場	高度ポリテクセンター	2025年	9月	2日、3日
関西会場	ポリテクセンター京都	2026年	2月	17日、18日
新潟会場	ポリテクセンター新潟	2025年	9月	9日、10日

7. 国の施策に関する事業

1) 中小企業等経営強化法に係る証明書発行に関する事業

当会は2016年7月にスタートした中小企業等経営強化法の証明書発行団体として、2016年8月から証明書の発行を開始し、累計の発行数は11,636通で、その内訳は正会員7,867通、賛助会員1,101通、非会員2,668通となっており、包装機械業界の販売促進ならびにユーザー業界の新規設備投資促進に努めた。

本年度の証明書発行(679通)の内訳は次の通りである。

正会員	449通(証明書発行手数料は1通に付	2,000円)
賛助会員	56通(同上)
非会員	174通(証明書発行手数料は1通に付	10,000円)

2) 中小企業省力化投資補助事業に関する事業

当会は、以下の製品カテゴリに該当する証明書発行団体として省力化基準を満たすかの審査を行い、審査結果を補助金事務局に提出し承認を受けた製品に対し、証明書を発行した。

- ・オートラベラー
- ・シュリンクフィルム収縮装置
- ・食品自動袋とじ装置

8. その他関連事業

1) 包装機械会館の運営に関する事業

株式会社日本包装リースならびに株式会社包装システムと協調し、6階部分の賃貸、2階会議室の貸し出しをはじめ包装機械会館の運営、保守保全に努めた。

2) 会員企業の販売促進、経営安定化に関する事業

株式会社日本包装リースとの協調によるリース販売の促進、事業承継サポートプログラムの利用促進、ならびに本年度より新たに会員向けサービスが拡充された、出資業務・アドバイザー業務などの利用促進に努めた。また株式会社包装システムと協調し、PL保険・包装機械総合保険への団体加入の促進に努めた。

3) 福利厚生に関する事業

全国印刷製本包装機械企業年金基金および印刷製本包装機械健康保険組合の事業に積極的に協力し、加入者の福利厚生事業の充実に努めた。

4) 関連産業との連携

日本製パン製菓機械工業会、日本粉体工業技術協会、日本化粧品工業連合会、日本冷凍食品協会をはじめ包装関連産業、食品関連産業、製パン・製菓産業、印刷機械産業、電気・電子機器産業などの関連機関との産業連携を推進し、包装機械業界の発展に努めた。

9. 会員の現況

2026年3月31日現在の会員数は正会員144社、賛助会員115社、合計259社となっている。2025年度の入会、退会の状況は次の通りである。

1) 入 会

<正会員3社>

株式会社マックス、株式会社キーエンス、山崎産業株式会社

<賛助会員3社>

株式会社マルカ、株式会社盛運、エイトス株式会社

2) 退 会

<正会員2社>

株式会社印南製作所、株式会社光機械製作所

<賛助会員5社>

旭化学合成株式会社、株式会社久電舎、ZACROS株式会社、名糖株式会社、Serac JAPAN 株式会社

3) 会員登録の変更

<賛助会員から正会員に変更>

四国計測工業株式会社